

とうきょう すくわくプログラム実践報告書 0歳児

所在	東京都狛江市
園名	狛江市立駄倉保育園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

いろいろな色や形に触れ、楽しむ。

<テーマの設定理由>

ピタゴラスブロックで、色の世界を楽しんだり、繋げたりして構築遊びを楽しむ。

2. 活動スケジュール

ピタゴラスブロックに触れる

ピタゴラスブロックを通して世界を見て色を楽しむ

複数のブロックを重ねて色の変化を楽しむ

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

・牛乳を飲み終わった児がほふく室にいるため、サークルの前の広いスペースで数名から出来るように準備をした。取りやすいように、カゴから出し、遊びやすいようにした。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

サークルの前に準備したピタゴラスブロックを保育者が覗いてみたり、組み立ててみたりするのを見て、実際に覗いてみたり、組み立ててみたりする。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

- ・ 初めて見る物で、不思議そうに見つめていた。
- ・ 保育者がピタゴラスブロックを覗いて見せると、真似をしてブロックを持って覗き込んでいた。
- ・ ピタゴラスブロックを覗きながら立ち上がり、隣のほふく室にいる児にガラス越しで見合っていた。それを見て、ほふく室にいる児もピタゴラスブロックの方に向かっていった。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

初めて覗いて見たときに、目を輝かせた表情をしていて、そのあといろいろな色のブロックで重ねて色の世界を楽しむことができた。色の世界を楽しむことで、他児との関わりも生まれたと感じた。遊んでいるうちに、保育者の真似をするだけでなく、子どもたちがブロックを繋げてお家を作ったり、積み重ねてみたりとそれぞれが遊びを広げることができ、0歳児でも楽しむことができるものだと感じた。

とうきょう すくわくプログラム実践報告書 1歳児クラス

所在	東京都狛江市
園名	狛江市立 駄倉保育園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

好きな色を選ぶ

<テーマの設定理由>

子どもたちが親しんでいる歌「どんないろがすき」をきっかけに、色への興味・関心を広げていけるよう、本テーマを設定した。

単色だけでなく、色と色が重なったり、混ざり合ったりすることで変化する様子を遊びや製作を通して視覚的・感覚的に楽しめるようにした。

2. 活動スケジュール

- ・日々の保育や朝のお集まりの中で、身の回りの物の色に触れたり、言葉にしたりしながら色への関心を高める。
- ・カラーセロファンを使った遊びを通して、色の重なりによる変化に気付く経験をする。
- ・デコルコマニーの技法を取り入れた製作を行い、絵の具の感触や色の混ざり合いを楽しむ。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

〈素材・道具〉・カラーセロファン（赤・青・黄） ・絵の具（ピンク・水色・黄緑）
・筆 ・ちょうちょの製作（黄色い画用紙を羽の形にしたもの）

〈環境設定〉

- ・一人ひとりが落ち着いて取り組めるよう、少人数で実地する。
- ・保育者がそばで見守りながら、安全に絵の具を扱えるようにする。
- ・筆は色ごとに人数分用意し、色が混ざりすぎないように配慮する。
- ・汚れても安心して活動ができるよう、手拭きを用意するなど机の上の環境を整える。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

- ・ カラーセロファンを重ねたりしながら、見える色の変化を楽しむ。
- ・ ちょうちょの形の画用紙に絵の具で自由に描き、デコルコマニーの技法で色が広がったり、混ざり合ったりする様子を体験する。
- ・ 完成した作品を見て、色の変化や模様の面白さを感じる。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

- ・ はじめは色の変化に気づきにくい様子も見られたが、保育者がゆっくりとセロファンを重ねて見せると、「みどり!」「むらさき!」などと言葉にしたり、指差しをしたりして嬉しそうに反応する姿が見られた。
- ・ 絵の具の活動では筆を動かすこと自体を楽しみながら、色が広がる様子に夢中になる姿があった。
- ・ デコルコマニーで紙を開いた瞬間に、「みてー!」と、保育者や友だちに見せようとする姿や笑顔で喜ぶ様子が見られた。
- ・ 保育者が「きれいだね。」「〇〇色になったね。」と、言葉を添えることで、子どもたちも色の変化に気付きやすくなっていた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

- ・ 日頃の製作活動の積み重ねにより、絵の具の扱いに慣れている子が多く、のびのびと表現する姿が見られた。
- ・ 好きな色から使い始める子が多くみられ、一人ひとりの興味や好みの違いを感じることができた。
- ・ 月齢や発達によって反応に差はあったが、少人数で落ち着いた環境を設定することで、それぞれのペースで色の変化を楽しむことができた。
- ・ 視覚だけではなく、「塗る・広がる・混ざる」といった感覚的な経験を通して、色への興味を深めることができたと感じる。

とうきょう すくわくプログラム実践報告書 2歳児クラス

所在	東京都狛江市
園名	駄倉保育園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

色を混ぜることやそれによる色の変化を楽しむ。

<テーマの設定理由>

絵の具や色水で活動すると色を混ぜようとする姿や、赤と青を混ぜると紫になるよと発言する姿があり、色への関心が日ごろの様子から見られたため設定した。

2. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ・ 蛍光絵の具
- ・ 画用紙

3. 探究活動の実践

<活動の内容>

蛍光絵の具 6 色（赤、ピンク、黄、オレンジ、緑、青）を準備しておき、目の前で子ども自身に 2 色を選んでもらう。1 色ずつ手形を取ってから、両手をこすり合わせて色を混ぜ、また手形を取る。

4. <活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

- ・～色と～色だと～色になると思う、と予想をしていた。
- ・～みたいな色になった、と混ぜ合わせたことによる色の変化に気づき、楽しんでいた。
- ・1色ずつ手形を取る前に、両手の色を混ぜ合わせ、感触を楽しんでいた。
- ・混ぜ合わせた色で何回も手形を取りたがり、自分で作った色を喜んでいた。
- ・全て混ざりきらず、ところどころ混ざっている状態も気に入っていた。。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

- ・子どもたちの予想通りの色になってもなくても、混ぜ合わせることを喜ぶ姿があった。
- ・各々の経験や色彩感覚で、2色を混ぜたらどうなるかを考えていた。
- ・よく混ぜ合わせることで、色の違いに気付いてほしい、気付きやすいと考えていたが、混ざりきらない色のきれいさを大切にしたい感覚をもつ児もいることに気付いた。

とうきょう すくわくプログラム実践報告書 3歳児

所在	東京都狛江市
園名	狛江市立 駄倉保育園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

色の変化を楽しむ

<テーマの設定理由>

色の変化を観察し、色の不思議を楽しむ

2. 活動スケジュール

第1回 色水遊び（単色）

第2回 色水遊び（2色）

第3回 色水遊び（2色）

第4回 色水遊び（多色）

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

1 テーブル 3~4 人のグループに分け、子どもたちがやりやすいように設定した。
用意したもの：絵具 5 色 透明コップ ペットボトルのフタ ストロー 水

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

用意した5色の絵の具から好きな色を2色選び、ストローですくい、透明なコップに入れ、水を入れて混ぜる。(2つ作る)出来た色水同志を混ぜ合わせる。何度も繰り返して色々な色水を作って楽しむ

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

水を入れた瞬間から色が変わると子どもたちの目が輝き、「先生見て、〇〇色になったー」「ジュースみたい」「美味しそう」と興奮が止まらなかった。
2色から始めた色水。楽しくなって提供した色を全部使い、「こんな色になっちゃったー」と繰り返し活動を通じて色の変化を楽しんでいた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

初めての活動や目の前で起こる色の変化に子どもたちは目を輝かせながら取り組み、大人が想像していなかったことを子どもたち自ら発見し、共有しながら楽しんでいる姿が見られた。

とうきょう すくわくプログラム実践報告書 4 歳児

所在	東京都狛江市
園名	駄倉保育園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

“えがおのさくら”

<テーマの設定理由>

これまでの成長と、次年度さくら組になる喜びやこれからの未来への願いを“笑顔の花”に込めた。

子どもたち一人ひとりの手形を桜の花に見立て、クラスみんなの手形が集まることで、大きな桜となり、仲間とのつながりや絆を感じられる作品をつくった。

2. 活動スケジュール

- ・年中の3月上旬～中旬に準備・制作
- ・3月中旬～4月に飾る

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

準備した素材

- ・絵の具：ピンク（薄ピンク、濃いピンク、白など数種類あると良い） 茶色、黒、白
- ・スタンプ台（パレット）：浅いトレイ
- ・土台：幹が描かれた大きな模造紙
- ・掃除用具：濡れタオル

環境設定

- ・全員が四方から囲める広いスペースを作る
- ・床に新聞紙やシートなどを敷く

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

- ・ 模造紙に茶色の絵の具を付けた筆で幹を描く。
- ・ ピンク色の手型を、桜の花に見立てて押す。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

- ・ 「やりたい!」「もっと押したい!」と意欲的に取り組む姿が見られた。
- ・ 手形が桜の花びらに見えることを楽しみ、手の向きを上下どちらがより花びらに見えるか考えながら押していた。
- ・ 完成が近づくと、「本物の桜みたい。」「春だね!」と、季節を感じた言葉が聞かれた。
- ・ クラスみんなで作り上げる楽しさや一体感を感じていた。
- ・ 桜の花の絵本や大きな模造紙を見せ、桜の木のイメージを膨らますことで、子どものイメージを引き出し、「やってみたい」という気持ちを育てる。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

テーマを自分たちで考えることで、作品を通して進級することを感じることができた。子どもたちの笑顔が溢れる活動になった。

手形スタンプを通して、友だちと一緒に一つの作品を作り上げる喜びを感じる姿が見られた。

とうきょう すくわくプログラム実践報告書 5歳児

所在	東京都狛江市
園名	狛江市立 駄倉保育園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

色を使った色々な遊び

<テーマの設定理由>

夏場、水遊びを行う中で色水遊びを行った。その際子どもたちが色を使った遊びを楽しんだため様々な色を使った遊びを行い色を楽しむことを目的として行った。

2. 活動スケジュール

夏の暑い時期、戸外に出られない日の制作活動として行っていく。

2つの活動を行った。

1、ビー玉アート

2、削り絵

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

1、ビー玉 白画用紙 汚れてもよい籠

保護者の方に活動の内容を伝え、汚れてもよい衣服の持参をお願いする。

事前に折り紙で魚を作っていた。子どもたちからその魚を入れる水槽を作るという意見が出ていたので、イメージして活動を行うようにした。

2、白画用紙 クレヨン アクリル絵の具（黒） 先をとがらせた割りばし

夏の話を行う中で花火の話題になったので、子どもたちと花火のイメージを共有するだけでなく、どんな花火があったら面白いかを考え、自由に表現が出来るように話をしてから始められるようにしていく。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

- 1、白画用紙を籠の中に入れ、コーナーに置かれている様々な色のビー玉を選んで自分だけの水槽を作っていた。
- 2、白画用紙をクレヨンで好きな色（黒以外）に自由に塗りつぶしていく。その後アクリル絵の具の黒ですべてを塗りつぶし、乾いてから削って色を浮き上がらせていく。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

- 1、最初は恐る恐る動きも小さく、手が汚れるのを躊躇する姿も見られたが、徐々に慣れていき勢いをつけて転がした時や角にぶつかったときの色の付き方の違い等にも気付く姿もあった。室内にいられない児もいたが、活動を見て自ら参加し、最後まで意欲的に取り組むことが出来ていた。
- 2、色で自由に塗りつぶすことを楽しんでいる姿が見られた。黒く塗りつぶすことは伝えずに進めていき、クイズ形式で次の工程を伝えていった。黒く塗りつぶす際には驚き戸惑う姿も多くみられたが、削り始めると色が浮き出てきたことで声が出る様子が多くみられた。こだわりを持って最後まで取り組む児も多かった。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

色を使った活動にとっても子どもたちは興味を持ち意欲的に参加する姿が見られた。ただ色で遊ぶだけでなく、様々な道具を使ったり、表現の仕方を普段と変えたりするだけで色の可能性が広がると感じた。

色を混ぜる楽しさを知る活動なども今後行っていきたい。また、他の内容についても一緒に行っていきたいと感じた。